

簡易口腔機能評価と

年齢・残存歯数に関する検討

名古屋第一赤十字病院 歯科口腔外科

村松彩加

【目的】口腔機能低下の要因を探ることを目的として、令和元年「中村日赤ふれ愛祭り」で歯科ブースに会場した20歳以上の全130名を対象に調査を行った。

【方法】対象者に、歯科衛生士による残存歯数の診査を行い、「パ」「タ」「カ」の音を用いて、それぞれ1回ずつオーラルディアドコキネシス(以下:OD)測定を行った。それぞれの測定結果に対して、年齢・残存歯数・義歯使用の有無に関して検討した。

【結果】年齢で区切ったOD回数の平均は、60歳以上(78名)の群で「パ」5.2回、「タ」5.4回、「カ」5.1回であり、59歳以下(52名)の群で「パ」5.8回、「タ」6.2回、「カ」6.0回であった。カイ二乗検定の結果、「パ」「タ」「カ」全ての音において60歳以上の群のOD回数は有意に少なかった。さらに、残存歯数で区切ったOD回数の平均は、残存歯数20歯以上(62名)の群で、「パ」5.3回、「タ」5.5回、「カ」5.2回であり、残存歯数19歯以下(16名)の群で、「パ」4.6回、「タ」4.5回、「カ」4.7回であった。カイ二乗検定の結果、「パ」「タ」「カ」全ての音において残存歯数19歯以下の群のOD回数は有意に少なかった。また、義歯使用の有無に関しては、「パ」「タ」「カ」全ての音で両群に有意な差は認められなかった。

【結論】加齢と残存歯数の減少が、口腔機能を低下させる要因となることが周知されているが、今回の調査それを裏付ける結果となった。

中規模自治体病院における歯科衛生士の役割

～常設・常勤化から5年経過して～

常滑市民病院 歯科口腔外科

水野淳子

【目的】常滑市民病院は「コミュニケーション日本一を目指して」を基本理念とするケアミックス型の病院である。歯科口腔外科は2015年5月の新病院への移転建て替えと同時に常設・常勤化された。

現在協議が進む半田市立半田病院との診療および経営統合を見据えて過去5年間の歯科衛生士業務を振り返り、今後の展望を考察する。

【概要および方法】2015年5月から2020年4月の5年間に歯科衛生士が行った業務を振り返り、歯科衛生士の役割を明確にした。

【経過および考察】2015年5月の当科常設・常勤化と同時に、呼吸ケアサポートチームから参加要請を受け人工呼吸器装着患者の口腔管理方法の標準化や合併症の予防を目的として歯科医師と回診を開始した。周術期口腔機能管理の必要性を院内に啓蒙した結果、2015年7月から一部の全身麻酔手術予定患者を対象に周術期口腔機能管理を開始し、2016年1月からは全ての全身麻酔手術予定患者とがん化学療法を行う患者を対象とした。2020年2月からは院内糖尿病教室で外来患者を対象に口腔保健指導を実施している。

さらに、地域包括支援センターの依頼を受け2018年1月から高齢者サロンで地域住民の健康維持や介護予防を目的に口腔健康講話を開始した。

今後は回復期リハビリテーション病棟などで多職種と連携して摂食嚥下リハビリテーションに加わり、歯科衛生士の専門性を発揮していきたいと考えている。

歯科衛生士の業務は診療室のみならず病棟や病院外にも広がっている。今後は地域の歯科医院や半田市立半田病院などの近隣病院の歯科衛生士と協働し、地域の口腔機能向上に貢献していきたい。

【結論】2015年5月からの5年間の歯科衛生士業務を振り返り今後の展望を考察した。